

平成28年12月21日

学力向上だより

第1号



北九州市立松ヶ江北小学校

〒800-0112 門司区大字畑518

TEL 093-481-0614

校長 浦田 一幸

教務主任 中村 英嗣

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	基本的な力の定着を図る必要があります。まずは、日々の漢字の練習、読書、辞書をひく等の基本的な学習を繰り返す必要があります。
国語B	文章の読み方、書き方を中心とした活用する力に課題があります。文に慣れ、どこが聞かれていることか、必要なことは何かを判断する力が必要です。
算数A	図形に関する問題については、取組の成果が少しずつでているようです。他の領域についても定着を図る必要があります。
算数B	問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題があります。資料の中で、問題を解決するために必要なことを判断する力が必要です。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">学校のきまりを守り、自分で計画を立てて勉強しています。宿題をしている児童の割合は、2年連続100%なのも、素晴らしいです。7割以上の児童が「読書がすき」と答えています。しかし、さらに多くの児童に読書の楽しさを広げられるように、今後も取り組みを進める必要があります。「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に、13%の児童が「当てはまらない」と答えています。また、将来の夢や希望をしっかりと持つことのできていない児童が21%います。 「自分っていいな」と思う気持ち(自己肯定感と言います。)を高めていくために、学習の中に体験活動を有効に取り入れ、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが必要です。また、授業の最後に学習内容を振り返る活動を行い、がんばったな、よくできたなという思いを多く持つことが必要です。夢を持ち、夢を形にするために、少しでも具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要です。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

国語に関する取り組み(読書に関する取り組みや、話し合い活動の充実。また漢字の復習など)を進めていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

規則正しい生活を送り学習を遅らせないために、欠席児童0人が1日でも多くなるよう、病気予防や安全などに関する早めの声かけ、家庭との連絡を密にするなどの取り組みを進めていきます。